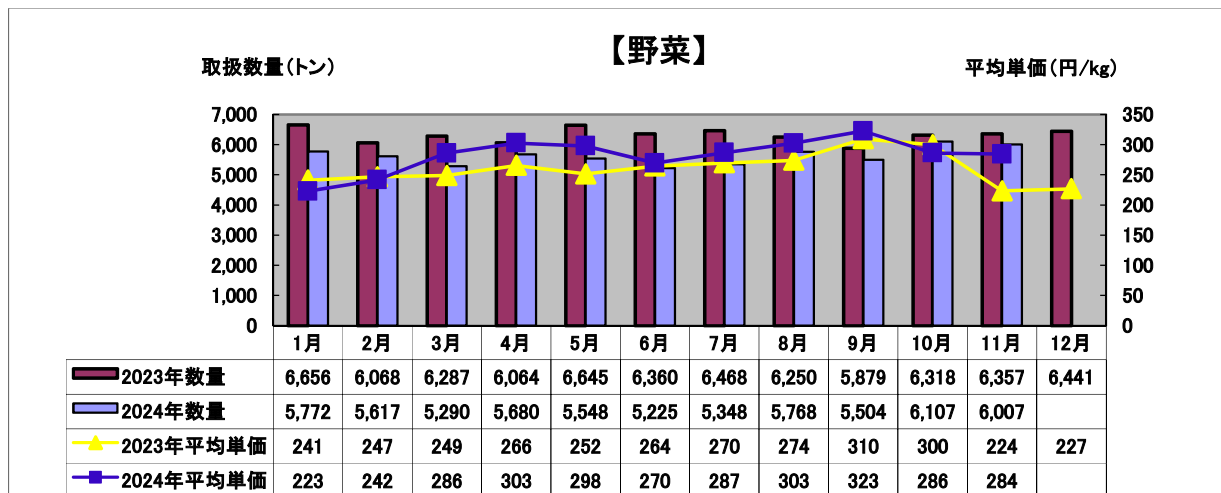


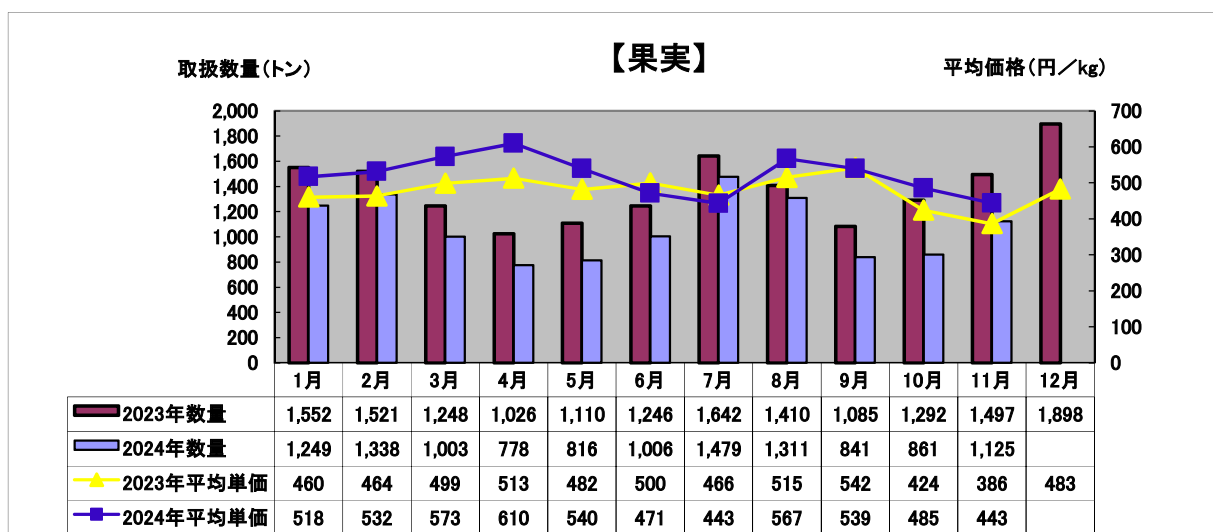
令和6年(2024年)11月 青果部種類別市況



11月の野菜類は、九州・四国を中心とする冬春産地の品目が夏の猛暑や10月から11月の降雨、日照不足の影響で生育が遅れ、小玉化や小型化が散見された。前年に比べ数量はやや減少し、平均単価は

かなり高く推移しました。

前年比数量 94%、単価 127%で終了しました。



11月の果実類は、カメムシによる被害、猛暑による生理落果の多発や生理障害果の発生により数量はかなり減少しました。単価については高く推移しました。

前年比数量 75%、単価 115%で終了しました。